途上国と関西にとって、なくてはならない存在になることをめざす

財団法人
太平洋人材交流
センター
PACIFIC RESOURCE
EXCHANGE CENTER

PREX NOW

December
2010

200

20 PREX 20TH ANNIVERSARY

CONTENTS

1	ニュース&レポート	太陽光発電研修に対する高いニーズ
2〜3	ニュース&レポート	中米地域の帰国研修員との関係強化に向けて
4	ニュース&レポート	関西の特色ある中堅・中小企業を訪問
5	協力企業特集	㈱キリン堂／㈱ロイヤルホテル／㈱山田製作所
6	PREX設立20周年記念コラム／PREXだより（インターンシップ受入れ、12月実施の研修）	

ニュース&レポート ❶

太陽光発電研修に対する高いニーズ

受入研修　環境

太陽光発電導入支援計画研修（A）

PREXでは、JICA（国際協力機構）の委託を受け、10カ国13名の行政官を対象に、9月24日から10月22日まで「太陽光発電導入支援計画研修（A）」を実施しました。昨年度もアジア地域を対象に太陽光発電をテーマとした同様の研修を実施しましたが、途上国からのニーズが非常に高いことから、今年度より全世界を対象に3カ年計画で年3回行い、そのうち2回をPREXで実施することになりました。今回は初年度の1回目にあたり、「系統連系システム（太陽光発電や風力発電などで発電した電力を、電力会社の送電または配電線に接続して運用するシステム）」導入のニーズが高い国々を対象に実施しました。

京セラ佐倉ソーラーセンターにて太陽光発電パネルの説明を受ける研修員。

“太陽光発電技術の先進国”日本で学ぶ

近年、気候変動緩和対策の一環として先進国・途上国を問わず、再生可能エネルギーの導入は重要案件となっており、とりわけ無限のエネルギーである太陽光を活用した太陽光発電の導入を加速化する動きが顕著になっています。ところが、途上国においては、太陽光発電の導入や、持続的なオペレーション・メンテナンスの方法などに関する知識が十分に習得されていないことが少なからず見受けられます。一方、日本の太陽光発電技術はきわめて高い水準にあり、特に関西地域には、太陽光パネルメーカーや電池メーカー、住宅に太陽光発電装置を設置するハウスメーカーが集積しています。

本研修においては、この“太陽光発電産業クラスター”を活用するため、関西経済連合会のご支援を得て、関西の太陽光発電関連企業への訪問を中心に研修プログラムを構成しました。また、大阪市立大学の小槻教授や鳥取大学の藤山教授から技術の基本的事項を学び、日本の再生可能エネルギー政策や海外への協力については資源エネルギー庁やJICAのエキスパートからそれぞれご講義いただくなど、産・学・官の協力体制で研修員を迎えることができました。

多彩なコンテンツと熱意あふれる研修員

研修の導入においては、日本の太陽光発電産業の歴史をコンサルタントの吉野様からご自身の経験も交えご講義をいただき、予定時刻を過ぎても研修員からの質問や、それぞれの国が直面している障壁への具体的なアドバイスを求める声が止むことはありませんでした。続いて実施されたカントリーレポート発表会では、各国の研修員から母国のエネルギー・電力事情、太陽光発電の現状等を報告していただくと共に、関西経済連合会会員企業様と意見交換の機会を設け、ご参加の方々から、具体的な太陽光プロジェクトにも踏み込んだ質問も得ました。

企業訪問の際には、研修員のほとんどが行政官であると同時にエンジニアの経歴をお持ちのため詳細な技術に関する質問も多く、これに応える形で企業の太陽光発電技術エキスパートから解説があり、研修員から好評を博しました。

— 国際交流部　担当部長　末尾 寿広

研修概要

研 修 名	太陽光発電導入支援計画研修（A）
実施期間	2010.9.24（金）〜10.22（金）
研修参加者	10カ国13名の行政官
委託元機関	独立行政法人国際協力機構（JICA）大阪国際センター
関係機関	関西経済連合会、大阪市立大学、地球環境センター

お世話になった方々、企業・団体（敬称略、訪問順）：JICA林俊行国際協力専門員、吉野量夫コンサルタント、チェンジ・エージェント、大阪市立大学小槻勉教授、JICA小川忠之国際協力専門員、大阪市柴島浄水場、GSユアサ、JICA新関良夫国際協力専門員、関西電力、パナホーム、三洋電機、シャープ、JICA、経済産業省、太陽光発電協会、京セラ、JICA木谷浩国際協力専門員、鳥取大学藤山英保教授、浜田、地球環境センター、ゴウダ

中米地域の帰国研修員との関係強化に向けて

交流事業 フォローアップ

中米帰国研修員フォローアップ事業

PREXは、帰国研修員を対象としたフォローアップ事業及び現地ニーズ調査を計画的に実施しています。今年度は、中国同窓会及び重慶同窓会を対象としたフォローアップ事業（5月実施）に続き、中米の帰国研修員を対象にしたフォローアップ事業を行いました。10月3日から14日まで「中米地域官民パートナーシップによる産業振興研修」をご指導頂いた奈良県立大学の村田武一郎教授にご同行頂き、中米のコスタリカとニカラグアにて帰国研修員のフォローアップとニーズ調査を実施しました。

コスタリカの帰国研修員との懇親会。中米貿易研修の第一期生も集まってくれました。

マリア・イサベルさんの帰国後の活動発表。

コスタリカでのフォローアップセミナーの様子。

PREXの中米関連事業と今回の訪問

PREXでは中米地域を対象に、2006年度から「中米・日本貿易振興のためのキャパシティ・ディベロップメント研修」を、2007年度から「中米地域官民パートナーシップによる産業振興研修」を開始し、2009年度までに同地域から約100名が訪日研修に参加しました。今回は、PREXにとって初めての中米訪問で、現地の状況にあった研修が実施できているのか、そしてPREXの研修がどのように現地で活かされているのかという点を確認するために、フォローアップとニーズ調査を実施しました。また、中米地域における帰国研修員との効果的なネットワーク構築方法も今回の調査のテーマの1つでした。

訪問国のコスタリカとニカラグア

コスタリカとニカラグアは、ともに人口500万人ほどの農牧業を主要産業とする国です。しかしながら、両国の経済規模には大きな差があり、ニカラグアのGDPはコスタリカのGDPの5分の1程度となっています。コスタリカでは、1949年に軍隊を廃止し、教育予算にGDPの6%以上を充てることが憲法で定められました。現在では、インテルなどの大企業がコスタリカへ進出していますが、優秀な人材が揃っていることが進出の要因になったといわれています。一方でニカラグアは、1980年代後半まで内戦が続き、現在も政治の混乱が続いています。国民所得や識字率は中米の間でも低い水準とされ、人口の約70%が貧困層といわれています。

現地企業への訪問

今回の出張では、帰国研修員のアレンジによって、政府機関や企業・団体等を視察する機会を得ました。ニカラグアでは、3年前にニカラグア資本で設立された乳業会社（CENTROLAC）を見学しました。ニカラグアでは、以前は国内に多くの牛乳生産者がいるにも関わらず、海外から粉末ミルクを輸入していたそうですが、同社が設立されたことによって、消費者は安価な値段で国産牛乳を購入することができるようになり、牛乳生産者の所得も2倍以上になったそうです。

よく中米の研修員が「中米には様々な資源があるけれども、全く活用できていない」と言うのを耳にしますが、地域の資源が活かされるようになれば、生産者の生活が大きく改善される可能性があることを実感しました。

帰国研修員の活躍

コスタリカでは8名、ニカラグアでは12名の帰国研修員がフォローアップセミナー・懇親会に参加し、帰国後の活動状況を紹介してくれました。

2008年度の「中米地域官民パートナーシップによる地域産業振興」研修に参加したコスタリカの太平洋果物生産者組合に所属するマリア・イサベルさんは、村田先生がコスタリカに来られるとの連絡を受け、セミナー当日は朝の4時に起きて、駆けつけてくれました。「研修に参加して、ものの見方や考え方が変わった。まるで違う自分になったみたいに感じた」と話してくれたマリア・イサベルさん。帰国後は、生産品の多角化や新商品の開発、農地の有効活用など、地域に収益が残るしくみづくりの構築に取り組んでいることを発表してくれました。

現地に訪問することの重要性

PREXは今年20周年を迎えましたが、帰国研修員とのネットワークをどのように構築していくのか、また同窓会組織をどのように活性化していくのかという点が今後の取り組むべき課題の1つとなっています。PREXの事業はこれまで人と人とのつながりを重視してきましたが、帰国研修

ニカラグアの帰国研修員が、新たに開発した地場産品を村田先生へ。

ニカラグアの乳業会社（CENTROLAC）

員に対しては、現地を訪問する機会が少なく、ほとんどの場合はメールでのやりとりが中心となっています。今回フォローアップセミナーに参加頂いた帰国研修員の多くは、研修に携わった講師の先生や職員との再会を楽しみに遠方から来てくれ、実際に顔と顔をあわせることの重要性を改めて認識しました。今後は現地を訪問する機会を増やすためのしくみづくりを構築し、帰国研修員にとってPREXがいつまでも身近な存在だと思ってもらえるような関係ができるように取り組んでいきたいと思います。

— 国際交流部　コースプランナー　北村 圭

事業概要

事 業 名	中米帰国研修員フォローアップ事業
出張期間	2010.10.3（日）～14（木） コスタリカ：2010.10.4（月）～8（金） ニカラグア：2010.10.8（金）～12（火）
出 張 者	奈良県立大学 村田武一郎教授、PREX 理事・事務局長 村瀬孝次、コースプランナー 北村圭

訪問先：コスタリカ貿易庁（PROCOMER）、JICAコスタリカ事務所、コスタリカ経済産業商業省、中米域内産業技術育成センター（CEFOF）、JICAニカラグア事務所、ノチャリ協会（NOCHARI）、ピタヤ生産者協会（APPINIC）、セントロラック（CENTROLAC）、全国農業畜産組合（UNAG）

講師の声

コスタリカとニカラグアを訪問

奈良県立大学 教授
村田 武一郎 氏

日本へ帰ってくると、商品の種類が豊富で、あまりにもカラフルかつ精緻なことに気づく。このことは、たくさんの中小企業が競い合って、多様な商品を市場に投入し続けていることの現われでもある。日本の状況が良いことなのかどうかはさておき、このような状況は、コスタリカやニカラグアでは見られない。

まず、国内の市場規模が異なる。コスタリカの人口は約452万人、ニカラグアは約567万人で、兵庫県（約559万人）の規模である。この規模で、多様な商品をということ自体に無理がある。当然、業種の多様性はなく、主産物である農産物の付加価値を高めようとしても、加工工程（洗浄～乾燥～搾汁～ボトリング～パッケージング）に必要な機械やパッケージ用品を自国で調達できないのである。

そして、従来、海外に一次産品を提供するだけに止まっていたことから、消費市場の情報を掴んでいない。その結果として、消費者が望む商品の精緻さを実現するまでに至っていない。バイヤーからは、品質向上を求められ、それを果たすための人材育成や機械の購入に、今後とも多くのエネルギーを投入しなければならない。

日本のように、国内市場が大きければ、また時代に応じた適切な産業政策が講じられていれば、例えば、大学で食品機械の技術者を育成し、自国の加工機械で付加価値を高められたものを……、と思われる。

訪日研修が与えたインパクト

一方、PREXの研修に参加してくれた人たちは、異口同音に「研修参加前と参加後とでは、ものの見方、考え方が変わった」と言ってくれた。そして、研修中に作成した行動計画を着実に実行し、さらに発展させていることに感銘を受けた。

コスタリカのPROCOMER（コスタリカ貿易振興公社）、ニカラグアのアスンシオン農牧業協同組合やCEI（貿易・投資センター）などのように、毎年職員を派遣してくれている組織では、日本で学んだ人たちが知識・情報を共有し、それを地域に広め、かつ地域リーダーとして地域の人々や企業の質の向上に奮闘している状況が見られた。

地域の総合力を発揮させる人材の育成を

学ぶ（気づく）能力がある人たちが研修に来てくれていることを喜ぶとともに、今後とも、彼らのような人たちに、多様な視点と知見（ものの考え方、優れた事例など）を持ち帰ってもらうことに注力する必要がある。

なお、彼らと接していて、また、いくつかの組織を訪問して、地域（国）の総合力を発揮させるうえでの戦略性・計画性・主体性の不足が感じられた。専門的知識を持ち帰ってもらう研修とともに、地域（国）の総合力を発揮させるプランナー・コーディネータの育成が急務であると考えられる。

関西の特色ある中堅・中小企業を訪問

受入研修 中小企業振興

中小企業振興政策（A）

JICA（国際協力機構）の委託を受け、中小企業の振興に従事する行政官を中心とした8カ国12名を対象に、「中小企業振興政策」研修を実施しました。途上国では、中小企業振興に関する研修ニーズが高く、今年度、当財団では、計5件の中小企業振興をテーマとする研修を受託、実施します。本研修はその中でも、中小企業振興の基盤が確立され、多数の中小企業が成長しつつある8カ国を対象としました。日本の政府、地方自治体による中小企業振興支援政策、支援実施機関の活動について学ぶと同時に、特徴ある企業を訪問しました。

プレーリードッグでは、全社をあげて、研修員を迎えてくださいました。中央が同社の松岡代表取締役社長です。

関西の中堅・中小企業の強みを知る

関西には優れた経営者、ユニークな技術・サービス特徴ある中堅・中小のオンリーワン企業が数多く存在します。研修では、そのような特徴ある企業を訪問し、企業経営者から現実の話を聞くことにより、それぞれの企業の強みについて理解を深め、また日本が取り組んできた中小企業振興の過程と実績・教訓などを理解した上で、研修員が自国の中小企業振興施策の強化策を検討することが重要です。

今回ご協力いただいた企業を紹介します。地場産業である「京友禅」を継承、自立した経営を推奨し、下請けからメーカーとなった「岡山工芸」。「技」を極め、資格を持つ技師を数多く育て上げながら、工作機械メーカーとしての地位を確立される「長島精工」。食の安全を第一に、無店舗事業による効率化された流通の模範である「ならコープ」。一見小さな町工場にもかかわらず、地域資源であるロボット技術を応用し、開発と販路開拓を追求しながら経営革新を推し進める「津川製作所」。地域に根付く金融機関として地元の中小企業の活性化を目指す「尼崎信用金庫」。精密部品の製造技術と高いデザイン性で各方面から注目を浴びる「ゼロ精工」。研修員からは、「経営の中で一番苦しかったとき、どのように乗り越えたのか」「グローバル競争で生き残るための方法は」「行政支援を受ける際に、一番難しかった点は何か」「従業員に技術を伝承するために一番大切なことは何か」「私たちの国の中小企業にアドバイスがほしい」など、行政官として理解すべき点についての質問が数多く寄せられました。

関西企業の商品開発にかける思いと海外展開…「プレーリードッグ」の事例

大阪市中央区本町に本社を置く「プレーリードッグ」は、1993年に設立、消費者の立場でものづくりに取組み、タオルや寝具等繊維製品の企画・製造・卸売を行う企業です。本当のケーキに間違えてしまうほど、精巧に造られたケーキタオル「ル・パティシエ」シリーズをはじめ、その商品は常に消費者に、驚きと喜びを与えます。同社の海外展開のこれまでの歩み、その際に受けた行政支援、そして商品開発の流れやモットー、輸出振興の具体的ステップをご紹介いただきました。どの国の研修員も、同社の洗練されたデザイン性や商品開発力、そして戦略的な事業展開に感嘆していました。

— 国際交流部　コースプランナー　西阪 三友紀

TOPIC

チリからの研修員

この研修にはチリから企業コンサルタントのマリオさんが参加していました。世界的ニュースとなったチリの落盤事故で、作業員の救出が始まった10月14日は、研修終了の前日でした。「2カ月間とても悲しかったが、全員救出のニュースを見たときは涙がこぼれた。日本の皆さんが大変心配してくれたことは、チリ国民に伝えます」と話す彼は、中小企業のためのコンサルタント養成のシステムや、官民連携による中小企業振興に特に関心を持っていました。研修の最後にコースリーダーの松岡教授からは「今回の事故でチリの人々はチームワークを重んじるということが分かった。政治状況も安定しており、中小企業振興にとってもこのチームワークは大変な強みになるだろう」という助言がありました。

研修最終日、研修団を代表して、感謝の言葉を述べるチリのマリオさん。

研修概要

研 修 名	中小企業振興政策（A）
実施期間	2010.9.22（水）、27（月）～10.15（金）
研修参加者	中小企業振興に従事する行政官など8カ国計12名
委託元機関	独立行政法人国際協力機構（JICA）大阪国際センター

お世話になった方々、企業・団体（敬称略、訪問順）：龍谷大学大学院 松岡憲司教授、岡山工芸、長島精工、近畿経済産業局、プレーリードッグ、滋賀県産業支援プラザ、奈良県工業技術センター、市民生活共同組合ならコープ、日本政策金融公庫、中小企業基盤整備機構、中小企業大学校、中小企業診断士 関浦照隆氏、津川製作所、尼崎信用金庫、ゼロ精工

PREXの事業に賛同いただいている

協力企業特集

PREXでは、年間30件前後の研修を国内で実施し、
大変多くの訪問先にご協力いただいています。
その中から毎号、特色ある企業などをご紹介します。

2009年度総訪問先数
336件
うち新規 76件

スーパードラッグストアをチェーン展開

㈱キリン堂

本部＝大阪府大阪市淀川区
ＨＰ＝http://www.kirindo.co.jp/

「ウズベキスタン日本センター ビジネス実務研修」他で訪問

同堂は、1955年の創業以来、健康な人に健康を提案する「未病」というテーマを掲げ、事業を展開。現在、関西を中心に、地域に密着した「スーパードラッグストア」のチェーン展開を続けています。中央アジア・ウズベキスタン日本センターのビジネスコース修了者を対象とした「ビジネス実務研修」には、ウズベキスタンの薬局や製薬関連企業からの参加者も多く、昨年度は2つの研修で同社を訪問させて頂きました。研修では日本のドラッグストアの現状を学ぶと同時に、実際に店舗も見学し、マーケティング戦略や在庫管理に関する最新の取組みについての理解も深めました。研修員は、お客様と直接接する店舗における日本ならではの様々な工夫を目にし、ウズベキスタンでも適用できるヒントを見出せたようです。

キリン堂の店舗を訪問した研修員は販売における様々な工夫に新たなアイディアを得ることができました。

関西の迎賓館「リーガロイヤルホテル」

㈱ロイヤルホテル

本社＝大阪府大阪市北区
ＨＰ＝http://www.rihga.co.jp/

「ウズベキスタン日本センター ビジネス実務・ビジネスコース講師研修」で訪問

関西を代表する老舗ホテルとして国内外から多くの来賓を迎える同ホテルは、今年、創立75周年を迎えました。ホテルを利用されるお客様の感動と満足を追求するために、「リーガロイヤルハーツ」を従業員の一人ひとりまで浸透させ、お客様をお迎えする「こころ」をホテル全体で共有しています。研修では、人材育成のための取組み、特にモチベーションマネジメントについて学びました。最高のサービスを実現するためには、従業員一人ひとりの努力はもちろんのこと、それを組織として後押しするため、先進的かつ実践的な取組みにより「こころ」を浸透させることが重要であると理解しました。研修員は、「日本古代の洋式を表現した場所や世界中の歴史品の展示などまるで博物館のようなホテル」だと感激していました。

従業員のトレーニングルームや多様なコンセプトを持つ客室などもご案内頂きました。

製缶板金部品を一貫加工

㈱山田製作所

本社＝大阪府大東市
ＨＰ＝http://www.yamada-ss.co.jp/

「中小企業振興関連コース」で訪問

同社は、1959年4月創業、1969年7月に設立された各種製缶板金部品の製作会社です。山田茂社長、山田雅之専務のもと17名の社員で経営しています。高品質の製品、高い技術力は当然ながら、まず会社に入って感じるのは明るい職場の雰囲気です。きっちりと整理整頓された機械や工具、床にはもちろん、ゴミ一つ落ちていません。会社の様々な所に仕事がしやすくなる小さな一工夫があふれています。同社のホームページには社員さんのブログコーナーもあり、その自由なコメントに社内のびのびとした雰囲気を感じます。「良い現場は最高のセールスマン」。この言葉のとおりです。研修員はこちらに伺う度に、すばらしい現場とその工夫の数々に驚きの声をあげるのです。

製缶板金、板金加工、プレス加工から溶接、組み付け調整まで一貫加工の様子を視察する研修員。

PREX設立20周年記念コラム

「PREX NOW」200号の重み

「組織は人なり」、機関紙「PREX NOW」を振り返ると、各ページから先輩職員の皆様が奮闘される姿が目に浮かんできます。PREXの職員数は、20年間変わらず約20名で、約半数が企業からの出向者です。20年間で19社から73名の出向者と27名のプロパー職員がPREXを支えました。

創刊間もない紙面からは、関西の産官学を上げて設立されたPREXを、何とか離陸、上昇させようとした懸命な努力、関西経済人の高い志と地域発展への思いに応えようとする使命感が強く伝わってきます。また、各号に遠隔研修など新たな研修スタイルを模索し、チャレンジする姿勢、研修への創意工夫の跡が刻まれています。常に変化し、発展してきたPREXは、PREXに関わる一人一人の個性あふれるパワーと前進への思いの結晶だと感じます。

広報担当の私は、PREXに支援頂く皆様と働く職員の尽力の結果を発信したいと考え、仕事に取組んできました。PREX設立20年を機に、記念誌の編纂に携るなど、改めてPREXの歴史の重み、社会の中で担った役割を学んでいます。そこには、仕事への姿勢を新たにするような発見があります。

「PREX NOW」の1号1号を大切に発行し、PREXの活動の軌跡を形にして残すとともに、PREXが何を目的として作られたのか、社会に対してどんな役目を果たしているのか、その中で、自らが心を注ぐべき点はどこにあるか常に考え、「組織は人なり」の言葉に恥ずかしくないよう努めたいと思います。

— 総務部　主事　西本 政子

1990年の創刊号では、宇野収会長（当時）が関西の国際化への一大事業としてPREXの設立、関経連アセアン経営研修の実施について報告しています。また、英語版は1991年に、中国語版は1994年に創刊されました。

PREXだより

インターンシップ受入れ

PREXでは、交流活動として留学生、日本人学生のインターンシップを年間3名程度受入れています。阪南大学の秦さんの夏期休暇を利用したインターンシップ体験の感想をご紹介します。

日本と海外の未来を繋ぐPREX

秦 明花　阪南大学 国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科3回生（2010.8.23～9.17）

今年の夏は、これまで過ごしてきた夏季休暇の中で、一番熱く、心に残る日々を過ごした夏でした。

私のPREXでの主な仕事は、事務作業や研修同行などでした。事務作業の中でも会議のお茶出しや、会議資料の準備などいろんな体験、経験をさせて頂きました。

研修に同行し、強く印象に残っていることは、最高の研修にするため、熱心に作業に取り組んでおられる職員の方々の努力と、講義や説明を聞く研修員の方々の真剣な眼差しです。研修が始まる前から終わるまでには、多くの事務作業が存在します。職員の方々は、どのようにプログラムを進めていけば研修員の方が混乱なく研修を進めていけるかを常に考え、プログラムを実行していきます。その姿は、本当に輝いていました。

PREXは、研修を通じてたくさんの海外の方と出会い、情報を共有し合える場所で、日本と海外の未来を繋ぐ、なくてはならない存在だと感じました。このインターンシップで、本当に様々なことを学びました。この学んだことを活かし、今後の活動に繋げていきたいと思っております。

ニカラグアの研修員から伝統工芸品のブレスレッドを記念にいただいた秦さん（中央）

PREXシニア専門家による勉強会を開催

11月17日、PREX会議室にてPREXシニア専門家による勉強会を開催しました。

講師は、ジェトロ専門家としてインドネシアに駐在経験のある小川秀洋氏（PREXシニア専門家）で「インドネシア経済動向と人材育成」をテーマに講義を頂きました。PREXでは、職員の視野拡大のために、経験豊かなPREXシニア専門家を講師に、年数回勉強会を開催しています。

2010年12月実施の研修

海外研修　環境

京都市・西安市草の根技術協力事業「西安市における大気環境改善」

実施期間　2010.11.28（日）～12.4（土）
研修参加者　西安市の大気環境改善に関わる行政幹部100名（予定）
出 張 者　京都市職員3名、PREX職員1名
委託元機関　独立行政法人 国際協力機構（JICA）大阪国際センター
関係機関　京都市

PREX NOW 第200号
2010年12月発行

編集・発行：財団法人 太平洋人材交流センター　専務理事 藤田賢次
〒552-0021 大阪市港区築港2丁目8-24 pia NPO 502号　TEL 06-4395-2650　FAX 06-4395-2640
ホームページ：http://www.prex-hrd.or.jp　電子メールアドレス：prexmail@prex-hrd.or.jp